

建築をつうじ東アジアの文化・ 環境の系譜を探る

キーワード 植物資源、木造建築、相互関係、生業、持続可能性

環境破壊・都市化が進む現代社会で、私たちはどうしたら持続的な住環境を構築していけるでしょうか？この答えは、土地特有の材料や技術が集約された伝統的な民家・集落の中に、人類の知恵として埋め込まれているように見えます。

建築についての多数の専門家が結集した「東アジアの伝統的民家・集落と環境」リサーチユニットでは、周辺の自然・社会環境との相互関係を持ちつつ形成される伝統的民家・集落に関する多面的な研究を行い、新たな街づくりに役立てるとともに、そこから見えてくる東アジアの文化の系譜の解明にも挑戦しています。

伝統的な住居から日本を捉え直す

持続的な住環境の構築が喫緊の課題となり、伝統的民家・集落の中に埋め込まれた人類の数々の知恵を学ぶ必要性がますます高まっているのですが、残念ながら現在では、伝統的な民家・集落に関わる研究が個別分散化してしまっているのが実情です。

筑波大学には、このような伝統的民家・集落に関する研究者が数多く結集しており、既に多くの共同研究の実績があります。

本リサーチユニットはこれらの専門家が構成する国内外でも稀有な研究グループです。私たちの研究対象は民家だけでなく、集落周辺にある山林や農業の状態の把握も含まれます(図1)。これらの調査過程で見つけ出した魅力的な資源を、その地域の街づくりへと反映させていくことも、私たちの研究目的の一つです。



図1：中国でのフィールド・ワークのようす

古代からの建築文化の変遷について考える

東アジアの建築には、生活する人々の価値基準やそれを取り巻く文化的背景が反映されています。じつは、現在も東アジア地区で使われている建築や集落のなかには、日本の古い時代の

ユニット名

東アジアの伝統的民家・集落と環境

ユニット代表者 システム情報系 教授 藤川 昌樹

◆ユニット構成員 総数 12名 (教員6名/ポストク2名/他機関4名)



それらに酷似したものが存在しているのですが(図2)、当時の人々の間にどのような交流や、思想・文化的な相互作用があったのかはまだ分かっていません。

私たちはこの謎を解明するために、日本を含む東アジアにおける伝統的民家・集落・環境の相互関係についての学際的フィールド研究を実施しています。東アジア全域にわたる木造文化の歴史的展開過程に関する研究を深化させることで、東アジアの文化の源流が明らかになるのではないかと期待しています。



図2：日本の棚田や群倉とよく似た風景が広がる中国山間部

社会への貢献・実績

- 自然・社会環境との関係に着目した民家・集落史研究の再構築
- 現在残されている民家・集落の保全・再生に関する基礎的知見の獲得
- 持続可能な住環境形成手法に関する実務的知見の獲得

取材：平成25年10月21日